

患者のステロイド治療に対する葛藤

6階東病棟

○ 大石 文子 上田 理絵 安岡 未希 古谷 聡子
近江 優子 仲本 和子 西本 敦子 森 郭子

I. はじめに

私達の病棟は内科病棟であり、副腎皮質ステロイドホルモン剤（以下ステロイドと略す）を使用している患者は多い。ステロイドは強力な抗炎症作用及び免疫抑制作用があり、現在多くの疾患に用いられているが、効果が大きい反面様々な副作用も認められる薬である。私達はステロイド治療をしている患者と日々関わる中で、患者がステロイド治療に対する期待や不安などの思いを訴える場面に接することがあり、様々な葛藤を抱いていると感じている。しかし、ステロイド治療を受けている患者の思いを十分に理解できていない現状にあると考えた。そこで患者のステロイド治療に対する葛藤について、過去5年間の文献検索を行ったが、該当する研究は見つけられなかった。私達は患者のステロイド治療に対する葛藤の内容を明らかにすることで、より患者を理解し、患者がステロイド治療を継続していける看護援助につなげることを目的とし研究を行った。

II. 研究目的

患者のステロイド治療に対する葛藤の内容を明らかにする。

III. 本研究の概念枠組み

本研究の概念枠組みは、葛藤についての文献から、K. Lewin の葛藤の定義を参考にした。K. Lewin によると、葛藤とは人に作用する2つの力が方向において反対で、強さではほとんど等しい状態と定義されている。また葛藤を接近・回避型葛藤、回避・回避型葛藤、接近・接近型葛藤の3つに分類している。これらを基に私達は、「葛藤とは、ステロイド治療に対する期待・希望のような思いと、不安・恐怖のような思いで成り立っている。その両者は相互に関わっており、周囲の環境から影響をうけている」と定義した。

IV. 研究方法

表1 対象患者の背景

1. 研究対象

現在ステロイド治療を受けている患者で、研究

| 性別・年齢 | 女性・66歳 | 女性・52歳 | 女性・34歳 | 女性・35歳 | 女性・68歳 |
|-----------|------------|-------------|---------------|-------------|-----------|
| 主疾患 | シェーグレン症候群 | 強皮症 肺線維症 | ウエーバー-クリスチアン病 | 全身性エリテマトーシス | ベーチェット病 |
| 現在のステロイド量 | プレドニソ 30mg | プレドニソ 10mg | プレドニソ 30mg | プレドニソ 40mg | プレドニソ 5mg |
| 治療期間 | 2年間 | 4年間 | 5ヶ月 | 13年間 | 1年7ヶ月 |

の主旨を理解し、参加の同意が得られた患者5名。(表1)

2. データ収集期間

2000年9月4日から9月28日までの5日間実施

3. データ収集方法

半構成的インタビューガイドに基づき、10分～30分の面接調査をした。

4. データ分析方法

面接内容をテープに録音し、得られた情報を逐語的に文章にした。それをデータとして、ステロイド治療に対する葛藤を抽出し、KJ法による分類を行った。

V. 結果

私達はこの研究により、患者のステロイド治療に対する葛藤として、「自分の将来への不安」「ステロイドの副作用への不安」「ステロイド自体への不安」「病気自体に対する不安」「将来の家庭への希望」「ステロイドの副作用が出現しないことへの期待」「病気が良くなることへの期待」「病状安定の維持を望む」「ステロイド治療に対して恐怖はあっても前向きに付き合いたい気持ち」の9つの大カテゴリーを得る事が出来た。(表2 - 10)

「自分の将来への不安」とは、仕事・家庭・治療環境に対して、将来どうなるのかわからないことが心配となっていることである（表2）。

表2 自分の将来への不安の分析過程

| ローデータ | 小カテゴリー | 中カテゴリー | 大カテゴリー |
|--|--|--|---------------|
| 「社会復帰ができるかどうか」 「結婚もできないのかな、子供もできないのかなという不安」 「再発したらまた子供と離れないといけないというそんなのがあるから」 「子供が小さいから育児に追われて自分の体を大事にすることができるかなあ っていう不安があったりとか」 「子育ての忙しさ・大変さからだと思うんですけど、そういうことでまたちょつ と悪化したんじゃないか、生活環境と自分のがこんなにか混ざっている」 「もしすぐ入院で言われた時に入院できる体制にもっていけるかどうか」 「良い先生とめぐり合えるかなあとか、お薬を先生の考えによって治療の方法も 違うだろうから、まあそういうことが心配だったり」 | 仕事復帰への不安 結婚への不安 子供と離れることへの不安 育児で病状が悪化すること への不安 将来家庭の役割を遂行しなが ら治療に専念できるか不安 将来の医療体制への不安 | 人生設計への不安 家庭生活と治療の両 立ができるか不安 将来治療環境が整え られるか不安 | 自分の将来への 不安 |

「ステロイドの副作用への不安」とは、現在ステロイドの副作用があること、将来ステロイドの副作用が生じる可能性があること、そして漠然とステロイドの副作用に対し恐怖を抱いていることから、ステロイドの副作用自体に対しての恐怖心があることである（表3）。

表3 ステロイドの副作用への不安の分析過程

| ローデータ | 小カテゴリー | 中カテゴリー | 大カテゴリー |
|--|---|--|-------------------|
| 「その、眠れなくなるっていうのが頭にあるから、この薬飲もうか飲むまいか」 「気持ちの中ではやっぱりどうなるかな、合併症があるかな、その合併症につながるって いうことがやっぱり恐怖だし」 「カルシウムが不足していくので骨が骨粗鬆症になりやすいということも気にしながら」 「恐怖症ね、こんなに薬が効いてという。ほんとに副作用がまた出てきやせんろうか」 「あの興奮したり、イライラしたりする。いいように興奮すればいいけど、うつ状態にな ってしまったらとか、そういうこともあるだろうから」 「そしたら今度はもう過食みたいになって、その、お腹がすいて、たたベッドの下から悪 魔の手がきてね、前のお腹の皮を引っ張るくらいこね」 「悪いほうばかり考えてた。なんで自分ばかりこんなになるのとか」 「うつ状態かな？」 「うんそう、むくみ・むくみ！それだけがとても敏感になって」 「こんなにお腹も膨らんでくるし」 「糖尿病とかムーンフェイスなんかは、一時的なものだからなんですけど」 「私わりと外見を気にする方なんで」 「なんか自分がそのまま地獄に落ちていくような感じがして」 「とにかくパニック」 「孤独・不安ね、それでお腹はすくし、もう人恋しくなるし、イライラするし。ベッドで 一人よう眠れんようになってナースセンターに来て座りましたわね」 「その不安そのものね。不安と恐怖とその孤独との戦い。なんか自分が取り残された気が」 「不眠っていうのがかまがちで頭をガンと割られたみたいで、その不眠という言葉がそれ でもうまた眠れなくなった」 「私が一番恐れていたのがその不眠だったわけ。眠れなかったから」 「いつも眠れなくてね」 「プレドニンの副作用知ってたらいいんですけど、あまりしないようにしているし」 「副作用が怖くて薬は嫌だ嫌だっていう所は、ちょっとそういう気持ちが強いわね」 | ステロイドの副作用で 不眠になるかもしれ ない不安 ステロイドの副作用で 合併症になるかも もしれない不安 将来更なる副作用 が出てくる事への 不安 ステロイドの副作用で うつ状態になるか もしれない不安 ステロイドの副作用に よる過食に陥って いることへの不安 ステロイドの副作用 による外見の変 化に対する不安 ステロイドの副作用 による不眠に対 する不安 ステロイドの副作 用自体への不安 | 将来ステロイドの副 作用が生じてく るかもしれない 不安 現在副作用があ ることへの不安 ステロイドの副作 用自体への不安 | ステロイドの副 作用への不安 |

「ステロイド自体への不安」とは、ステロイドは開始されると勝手にやめることができないこと、過去にステロイドを使用したときの経験からステロイドは怖いものと感じていること、ステロイドの投与量の多さに対して恐怖があることから、ステロイドというイメージに対して恐怖心があることである（表4）。

表4 ステロイドの副作用への不安の分析過程

| ローデータ | 小カテゴリー | 中カテゴリー | 大カテゴリー |
|--|---|--------|-----------------|
| 「急にやめたらいかんから指示通りにしなさいという話ね」 「ずっと長く飲み続けたいといけなから副作用が怖いっていうのと」 「一生続けたいとは言われてますんで、まあ病気で仲良く暮らす為にも指示通りやっ ていかなくちゃいけないと思う」 「小さい時から皮膚につけて、それも薬局で買って、もう応急処置でも早く治したいか らつけて、で、皮膚科に行ったらもうステロイド入りのはやめなさいよってのがあって、 ただ単純にきつい薬なんだろうなっていうのが頭にあったから。とにかく皮膚につけて怖 いものを飲むのがとにかく怖いっていうか」 「ステロイドっていう言葉が既に怖かった」 「100錠に比べたら少ないかなって開き直ったりしていたけど、でもそれを口に入れるっ てことは確かに怖かった」 「こんなに飲んで大丈夫なのかしらとか」 「すごいものを血液に入れられてしまったって」 | ステロイドを一生や めることができない 不安 過去の経験によるス テロイドのイメージ からくる恐怖 ステロイドの投与量 に対する恐怖 | | ステロイド自体 への不安 |

「病気自体に対する不安」とは、ステロイド治療している病気に対し、恐怖心を抱いていることである(表5)。

表5 病気自体に対する不安の分析過程

| ローデータ | 小カテゴリー | 中カテゴリー | 大カテゴリー |
|-------------------------------|--------|--------|------------|
| 「自分の病気をあまり特に(気にしないように)しちゃうてる」 | | | 病気自体に対する不安 |

「将来の家庭への希望」とは、ステロイドにより症状の軽減がみられることにより、家庭における将来の期待をもつことである(表6)。

表6 将来の家庭への希望の分析過程

| ローデータ | 小カテゴリー | 中カテゴリー | 大カテゴリー |
|--|--------|--------|-----------|
| 「ステロイドを始めてから状態が良くなってこれで自分も治ったような感じになって、もう一人欲しいかなという思い」 | | | 将来の家庭への希望 |

「ステロイドの副作用が出現しないことへの期待」とは、漠然とステロイドの副作用が出ないことを期待していたり、ステロイドの副作用が出現しないよう予防行為をとっていたことから、ステロイドの副作用が出現しない事を望んでいることである(表7)。

表7 ステロイドの副作用が出現しないことへの期待の分析過程

| ローデータ | 小カテゴリー | 中カテゴリー | 大カテゴリー |
|---|--|--------|-----------------------|
| 「その副作用がなければ」「自分も意識して食べる分量を減らそうと思ってますので」「今も意識的にご飯は半分とか残すようにしているんだけど、帰ってからがすごく怖いかな」 | ステロイドの副作用が出ない事への期待 ステロイドの副作用を予防したい気持ち | | ステロイドの副作用が出現しないことへの期待 |

「病気が良くなることへの期待」とは、ステロイドの効果で、病気が良い方向に向かって欲しいという気持ちである(表8)。

表8 病気が良くなることへの期待の分析過程

| ローデータ | 小カテゴリー | 中カテゴリー | 大カテゴリー |
|---|---|-------------------------------|---------------|
| 「その飲むことによって完治するっていうのが一番いいんだけど」「早く治れれば」「とにかくステロイドっていうのは先生が魔法の薬って、そのくらい効くんやったら自分の苦しみから早くもう、薬になりたいという気持ちが強くなって」「これが治す為の手段だし、先生に言われていることだから、まあそれはしないといけないかなと思って」「この薬がないと病気も治らんしね」「しんどいの治ってくれたらいいですけど、これ以上はないですよ」「そんで薬は飲んだら薬にはなるけど」「早くしてほしいというね、気持ちで、それくらいにこう、入院した当時は高熱・関節痛・体に痒いものが出てね、不眠が続き、本当にうるさい時でしたからね、そんなに効く薬だったら早くして欲しいと思ってね、先生に承諾しましたわね」「その痒いのも、これはなかなかうるさいですね、夜もこう眠れん」「本当、痒いってうるさい」「とにかく不眠とそれから痒い・痛い・熱が出るそれが薬になりたかった」 | 病気が完治する事への期待 ステロイドの効果への期待 現在の症状の改善を望む | 病気が完治することへの期待 症状の改善を望む | 病気が良くなることへの期待 |

「病状の安定維持を望む」とは、ステロイド治療を受けて病状が落ち着いている現在のような状態が、以後もずっと続くことを望んでいることである(表9)。

表9 病状安定の維持を望む分析過程

| ローデータ | 小カテゴリー | 中カテゴリー | 大カテゴリー |
|-------------------------|--------|--------|------------|
| 「このまま状態が落ち着いていけるかなと思って」 | | | 病状安定の維持を望む |

「ステロイド治療に対して恐怖はあっても病気と前向きに付き合いたい気持ち」とは、ステロイド治療自体に対して恐怖心があっても、ステロイド治療を受けながら、病気と良い関係を保っていきたいという気持ちである(表10)。

表10 ステロイド治療に対して恐怖はあっても病気と前向きに付き合いたい気持ちの分析過程

| ローデータ | 小カテゴリー | 中カテゴリー | 大カテゴリー |
|---|--------|--------|------------------------------------|
| 「そんなに恐れたところで病気をまあ、どっちを取るかになった場合に、やっぱり病気はこれから長い付き合いだから、一時的な大量投与くらいは心配してないということ、フォローを受けながらやってきた」「前向きに病気と付き合い合わないといけないなと思った方が正直かな」 | | | ステロイド治療に対して恐怖はあっても病気と前向きに付き合いたい気持ち |

VI. 考察

患者が、「小さい時から皮膚につけてて、それも薬局で買って、もう応急処置でも早く治したいからつけてて、皮膚科に行ったらもうステロイド入りのはやめなさいよってのがあって、ただ単純にきつい薬なんだろうな」

ていうのが頭にあったから、とにかく皮膚につけて怖いものを飲むのがとにかく怖い」と言っている。私達はこの患者の言葉から、過去の経験によるステロイドのイメージからくる恐怖心がステロイド自体への不安になる事がわかった。今後私達は、ステロイド治療に対する不安につながるような過去の経験の有無についても情報収集しておく事が、患者の心理を理解する一つの手段であると考ええる。

カテゴリーの中に、「病気が良くなる事への期待」とは別に「病状安定の維持を望む」というカテゴリーも出てきた。私達はこの結果から、患者は現状維持を望んでいるという思いもあるという事がわかった。そのため看護者は患者がどうなりたいかを理解し、患者の目標に合わせて接していく事が大切であると考ええる。

ステロイド治療を受けている患者の中には、「あまり深いことを考えたらいかんて(娘から)いつも言われるんですよ」というように、ステロイドの副作用に対しては何も考えないようにしているという人もいた。これはストレスコーピング理論の回避行動に当たると考え、患者のステロイドに対する不安がストレスになり、対処行動に至っているものと私達は考えた。この事から私達は、ステロイドに対する患者の不安は大きいという事がわかった。そのため看護者は患者の対処行動を認め、支える援助をしていく必要があると考ええる。

患者に対して影響を与えている人は、家人・医療関係者・同じステロイド治療を受けている患者・友人であった。「薬より人の優しさだね」「優しい言葉とかかけてもらって」という患者の言葉から、私達は、周りの暖かい協力により、患者が前向きな気持ちでステロイド治療を続けられている事がわかった。そこで私達は、患者の思いを前向きにさせていくための重要な行為が、「優しい声かけ」「傾聴」であると考え、精神的なケアを行っていく必要があると考ええる。

VII. おわりに

今回の研究で、患者のステロイド治療に対する葛藤の内容を明らかにした。結果より患者が様々な葛藤を抱きつつ、ステロイド治療を行っているという事がわかった。

私達看護者は患者について十分な情報収集を行い、患者がどうなりたいかを理解し、患者の目標に合わせて、その行動を支えていく事が大切であると考えた。

そして本研究により明らかにされた患者の心理を理解し、患者の思いを前向きにさせていく重要な行為である「声かけ」「傾聴」など精神的ケアを今後も十分に行い、前向きに治療を継続できるように働きかけていきたい。

本研究は、対象者に男性がいなかった事と、対象者全員が長期にステロイド治療を受けている患者に限られていた。そのため今後は対象者を広げた研究が必要と考ええる。

参考文献

- 1) 千馬ミキヨ：術前患者のストレス・コーピングの分析, 看護, 48(1), p181-195, 1996.
- 2) 有好和子他：SLE 患者の精神症状及び不眠対策, 看護技術, 40(11), p42-46, 1994.
- 3) 甲本敦子他：SLE 患者のステロイド療法中の食事のコントロール, 看護技術, 40(11), p47-50, 1994.
- 4) 太田澄恵他：ムーンフェイスに直面する SLE 患者への看護, 看護技術, 40(11), p51-54, 1994.
- 5) 石田喜美子他：症状精神病を呈した SLE 患者の看護, 看護技術, 40(11), p67-71, 1994.